

## II 北海道における廃棄物の現状

### 1 一般廃棄物

#### (1) 排出量の状況

令和元年度の道内におけるごみの総排出量は約185万tで、1人1日当たりのごみ排出量は、960g/人・日となっており、総排出量、1人1日当たりのごみ排出量とも、横ばい傾向となっていますが、1人1日当たりのごみ排出量は、全国平均の918g/人・日を上回っていることから、一層のごみの排出抑制が必要となっています。

表II-1 ごみ排出量の推移

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ごみ排出量 (千t/年)	計画収集量	1,560	1,528	1,526	1,528	1,517
	直接搬入量	244	239	219	227	219
	集団回収量	140	135	128	121	115
	計(総排出量)	1,944	1,902	1,873	1,876	1,851
1人1日当たりのごみ排出量 (g/人・日)	道内	984	970	961	969	960
	全国	939	925	920	918	918

注) 単位未満は四捨五入をしているため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。

(道及び環境省調べ)

#### (2) リサイクルの取組状況

令和元年度の道内の市町村において分別収集や中間処理により資源化された量は約31万t、住民団体等によって資源回収された集団回収量は約12万tでした。これらを合わせた全道のリサイクル率は、23.2%となっています。

また、全国の市町村において分別収集や中間処理により資源化された量は約649万t、住民団体等によって資源回収された集団回収量は約191万tでした。これらを合わせた全国のリサイクル率は19.6%となっています。

表II-2 リサイクル率の推移

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
リサイクル率(%)	道内	24.3	24.3	24.3	23.9	23.2
	全国	20.4	20.3	20.2	19.9	19.9

注) リサイクル率 = (直接資源化量 + 中間処理に伴う資源化量 + 集団回収量) / (ごみ処理量 + 集団回収量)

(道及び環境省調べ)

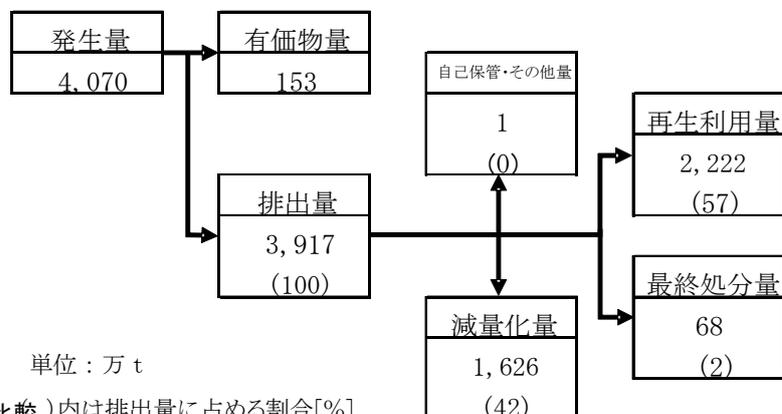
## 2 産業廃棄物

### (1) 発生状況等

平成30年度の道内における産業廃棄物の発生量は4,070万tで、その中から有価物量153万tを除いた排出量は、3,917万tとなっており、平成29年度と比較して3%増加しています。

処理の内訳をみると、排出量3,917万tのうち、再生利用率が57%、中間処理による減量化率が42%、最終処分率が2%となっています。

図Ⅱ-1 平成30年度の産業廃棄物処理状況



表Ⅱ-3 平成30年度と平成29年度の比較 )内は排出量に占める割合[%]

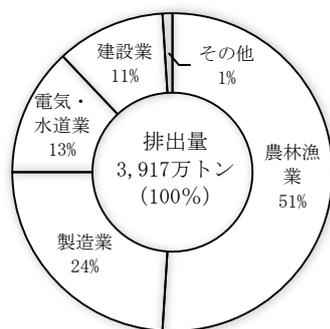
区 分	平成30年度(a)	平成29年度(b)	増減(c)=(a)-(b)
発 生 量 (万 t)	4,070	4,074	△4
排 出 量 (万 t)	3,917	3,874	43
再生利用量 (万 t)	2,222	2,150	72
再生利用率 (%)	57	55	
最終処分量 (万 t)	68	68	0
最終処分率 (%)	2	2	

### (2) 業種別の排出量・再生利用量・最終処分量

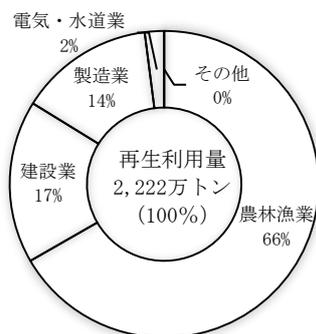
排出量を業種別に見ると、農林漁業が全体の51%を占め、次いで製造業、電気・水道業となっています。

また、最終処分量では、建設業が46%を、製造業が33%を占めています。

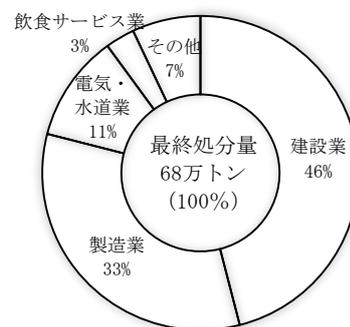
図Ⅱ-2 業種別排出量の割合



図Ⅱ-3 業種別再生利用量の割合



図Ⅱ-4 業種別最終処分量の割合



※再生利用量の内訳は、端数処理の関係で割合 (%) の合計が 100 になりません。